

※資料中のR5年度の実績値については、
決算認定前のため、決算見込みの数値
になります。

令和5年度 業務実績報告書

令和6年8月
西宮市立中央病院

1. 令和5年度の決算状況

- ・ 医業収益は、約45億8,500万円（計画比 ▲約1億2,300万円）となり、計画を下回りました。
- ・ 外来収益は計画を上回り（計画比 +約2,000万円）ましたが、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」）という患者の減少分を一般患者の増加によりカバーしたものの、結果的に入院収益が計画を下回った（計画比 ▲約1億5,300万円）ことが主な要因であると考えています。
- ・ 医業外収益は、新型コロナ関連補助金が計画よりも多く確保できたことなどにより、約7億9,100万円（計画比 +約3,600万円）となりました。
- ・ 医業費用は、材料費や経費の抑制により、約62億2,400万円（計画比 ▲約4,700万円）となりました。
- ・ 純損益は、約9億7,100万円（計画比 ▲約5,800万円）の赤字となりました。
- ・ 単年度資金収支額は、約5億9,100万円（計画比 ▲約6,900万円）の資金不足となりました。

●収益的収支

※端数処理(四捨五入)の結果、総数と内訳の計とが一致しない場合があります。 (単位：百万円。税込)

項 目	[実績]	R5年度 [計画]	計画比	前年度実績 (R4年度)	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度比 (R5-R4)	コロナ禍前比 (R5-R1)
病院事業収益 (A)	5,384	5,468	▲84	6,461	5,268	▲1,077	+116
医業収益 (B)	4,585	4,708	▲123	4,578	4,516	+7	+68
入院収益	2,482	2,635	▲153	2,497	2,440	▲15	+41
新型コロナ患者分除く	2,362	-	-	2,278	-	+85	-
外来収益	1,598	1,578	+20	1,567	1,527	+31	+71
その他医業収益	504	495	+9	514	549	▲9	▲44
うち一般会計繰入金	262	264	▲2	254	262	+8	▲1
医業外収益 (C)	791	755	+36	1,861	748	▲1,070	+44
うち一般会計繰入金	592	624	▲32	628	697	▲36	▲105
うち新型コロナ関連補助金	128	70	+58	1,161	-	▲1,033	-
特別利益	8	5	+3	22	4	▲14	+4
病院事業費用 (D)	6,355	6,381	▲26	6,450	6,559	▲95	▲204
医業費用 (E)	6,224	6,271	▲47	6,300	6,408	▲76	▲184
給与費	3,290	3,281	+9	3,281	3,417	+9	▲127
材料費	1,214	1,234	▲20	1,157	1,162	+58	+53
うち薬品費	844	825	+19	765	781	+79	+63
うち診療材料費	362	400	▲38	382	372	▲20	▲10
経費	1,393	1,420	▲27	1,419	1,286	▲26	+107
減価償却費	301	302	▲1	418	516	▲116	▲215
その他医業費用	25	34	▲9	26	28	▲0	▲2
医業外費用 (F)	102	99	+3	109	132	▲7	▲30
特別損失	28	11	+17	41	19	▲12	+10
医業損益 (B-E)	▲1,640	▲1,563	▲77	▲1,723	▲1,892	+83	+252
経常損益 (B+C) - (E+F)	▲951	▲907	▲44	30	▲1,276	▲980	+326
純損益 (A-D)	▲971	▲913	▲58	11	▲1,291	▲982	+320

●資本的収支

項 目	[実績]	R5年度 [計画]	計画比	前年度実績 (R4年度)	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度比 (R5-R4)	コロナ禍前比 (R5-R1)
資本的収入 (G)	286	330	▲44	273	1,673	+12	▲1,387
企業債	44	44	±0	61	61	▲18	▲17
出資金	230	234	▲4	210	904	+20	▲675
補助金	10	50	▲40	0	700	+10	▲690
他会計からの長期借入金	0	0	±0	0	6	±0	▲6
その他	2	3	▲1	3	2	▲0	+1
資本的支出 (H)	278	285	▲7	553	980	▲275	▲702
建設改良費	55	59	▲4	78	79	▲23	▲24
企業債償還金	218	218	±0	468	886	▲250	▲668
その他	5	8	▲3	8	15	▲2	▲10
収支差引 (G-H)	7	45	▲38	▲280	692	+287	▲685

●各種経営指標など

項目	R5年度			前年度実績 (R4年度)	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度比 (R5-R4)	コロナ禍前比 (R5-R1)
	[実績]	[計画]	計画比				
経常収支比率	84.8%	85.8%	▲1.0	100.4%	80.3%	▲15.6	+4.5
修正医業収支比率※1	70.7%	70.9%	▲0.2	69.9%	67.3%	+0.8	+3.4
職員給与費対経常収益比率※2	64.3%	62.8%	+1.5	53.5%	68.0%	+10.8	▲3.7
材料費対修正医業収益比率	28.1%	27.8%	+0.3	26.9%	27.5%	+1.2	+0.6
単年度資金収支額※3 (百万円)	▲591	▲522	▲69	176	▲587	▲767	▲4

※1 「修正医業収支比率」は、医業収益から他会計負担金を除いたもの（修正医業収益）を用いて算出した医業収支比率です。

※2 「職員給与費」は、決算統計に計上している職員給与費（非正規職員の人件費等を含む）に事務職給与負担金を加えて算出しています。

※3 不良債務削減に係る補助金（R1年度：7億円）を除いて算出しています。

2. 市（一般会計）からの繰入金の状況

(1) 一般会計負担の考え方

- ・公営企業は、独立採算制を原則とすべきものですが、地方公営企業法では「その性質上経営に伴う収入をもって充てることが適当でない経費」及び「性質上能率的な経営を行なってもなおその経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費」については、地方公共団体の一般会計において負担するとされています。
- ・令和元年度以前は、繰出基準の対象外となる設備投資等に係る企業債償還金や資金収支不足額の補填などについて一般会計から繰入れを受けていましたが、令和2年度以降、新型コロナウイルス対応に伴う空床補償などの補助金を受け経営状況が改善したことにより、こうした基準外の繰入れを縮小することができました。
- ・引き続き、経営改善への取組を継続し繰出基準の対象外となる一般会計からの繰入額の減少に努めます。

(2) 令和5年度の一般会計からの繰入金状況

- ・病院運営に関する「収益的収支」の繰入額は約8億5,300万円（計画比 ▲約3,500万円）となり、計画よりも抑制できました。
- ・投資に関する「資本的収支」の繰入額は約2億4,000万円（計画比 ▲約4,400万円）となり、計画よりも抑制できました。
- ・全体として計画よりも繰入額を抑制できた要因として、計画よりも各種経費等の支出が少なかったことが挙げられます。

●一般会計からの繰入金

（単位：百万円）

区分	R5年度			前年度実績 (R4年度)	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度比 (R5-R4)	コロナ禍前比 (R5-R1)
	[実績]	[計画]	計画比				
収益的収支	853	888	▲35	881	959	▲28	▲106
基準外繰入金※	0	5	▲5	0	98	▲0	▲98
資本的収支	240	284	▲44	210	1,604	+30	▲1,364
基準外繰入金※	125	167	▲42	0	1,149	+125	▲1,024
合計	1,093	1,172	▲79	1,091	2,564	+2	▲1,471
基準外繰入金※	125	172	▲47	0	1,247	+125	▲1,122

※「基準外繰入金」とは、他会計から公営企業会計へ繰り入れる経費のうち「地方公営企業繰入金について」（総務副大臣通知）に基づかない繰入金をいいます。

3. 新型コロナへの対応状況

【令和5年度の取組状況など】

- ・令和5年5月8日から、新型コロナの感染症法上の位置づけが、これまでの「2類相当」から「5類」に変更されました。
- ・通常診療(急性期医療)の提供に努めながら、公立病院として、5類移行後も発熱外来の継続や入院受入れ用の病床確保(最大25床)などの取組を継続しました。

●新型コロナに関する診療実績

項目	R5年度 [実績]	R4年度 [実績]	R3年度 [実績]	R2年度 [実績]	前年度比 (R5-R4)
入院患者延べ数	1,291人	2,588人	4,067人	2,395人	▲1,297人
実患者数	124人	217人	388人	339人	▲93人
特別外来等 ^{※1} での対応件数	1,085件	2,630件	2,142件	1,284件	▲1,545件
ワクチン接種者数 ^{※2}	167人	6,502人	10,474人	889人	▲6,335人

※1 「特別外来等での対応件数」は、発熱等で当院を受診し通常の診療枠とは別で対応した患者数を集計しています。

※2 市の集団接種事業が終了したことに伴い、令和4年度末で中央病院においても集団接種を終了しました。

令和5年度は、院内職員のみを対象に接種を行いました。

●新型コロナに関する取組実績など

年月	内容
R2年 1月	・発熱外来の運用開始
3月	・施設改修を実施し、発熱者等に対応する特別外来を設置
4月	・新型コロナ患者(中軽症)の入院受入開始
5月	・緊急事態宣言に伴い、不急の手術、人間ドックや企業健診などの健診事業を延期
6月	・正面玄関前での来院者に対する検温開始(7月からサーモカメラで測定)
8月	・県の新型コロナ重点医療機関指定に伴い、5階病棟(地域包括ケア病棟)を感染患者専用病棟化 ・入院前PCR検査の実施(入院を伴う手術前の患者から開始し、順次対象を拡大)
12月	・院内感染の発生に伴い、入院制限等を実施
R3年 2月	・新型コロナ患者(疑い含む)と接する業務に従事する職員に定期的にPCR検査を実施(2~3月)
3月	・市の集団接種会場の一つとして、新型コロナワクチン接種を開始
5月	・新型コロナ患者の受入病床数を増床(14床→20床)
6月	・新型コロナ患者の受入病床数の増床に伴い、一般病棟の稼働病床数を縮小(144床→107床) ・入院前PCR検査の対象を拡大し、新規に入院する患者全員を対象に実施
9月	・新型コロナ患者の受入病床数を増床(20床→25床)
10月	・新型コロナ患者以外の入院受入に対応するため、一般病棟の稼働病床数を拡大(107床→111床)
R4年 1月	・新型コロナ患者以外の入院受入に対応するため、一般病棟の稼働病床数を拡大(111床→127床)
3月	・西宮市消防局(救急隊)からの新型コロナ検査依頼への対応 (当院で受入不可な症例であっても検査のみ実施し、救急搬送の円滑化を支援している)
8月	・院内感染の発生に伴い、発生病棟において入院制限等を実施
11月	・院内感染の発生に伴い、発生病棟において入院制限等を実施
12月	・人員を効率的に活用し、新型コロナ患者及び一般患者の入院受入に対応するため、病棟体制を 4病棟から3病棟体制に再編(一般病棟126床、新型コロナ患者受入病床最大25床、計151)
12月	・院内感染の発生に伴い、発生病棟において入院制限等を実施
R5年 2~3月	・市の集団接種事業が終了したことに伴い、中央病院においても集団接種を終了 (2月中旬で成人を対象とした接種を、3月下旬で小児を対象とした接種を終了)
3~4月	・院内感染の発生に伴い、発生病棟において入院制限等を実施
8月	・院内感染の発生に伴い、発生病棟において入院制限等を実施

4. 業務実績

【入院】

- ・病院全体での1日平均患者数は108.5人/日（計画比 ▲12.5人/日）となり、計画を下回りました。
- ・前年度との比較では、新型コロナ患者が3.6人/日減少し、一般患者が4.6人/日増加しました。
- ・新入院患者数は3,705人（計画比 ▲295人）となり、計画を下回りました。
- ・前年度との比較では、新型コロナ患者が93人減少した一方で、一般患者が67人増加しました。
- ・入院診療単価は62,479円（計画比 +2,979円）となり、計画を上回りました。
- ・前年度との比較では、新型コロナ患者の減少などの影響により、1,177円減少しました。

（参考：新型コロナ患者の診療単価：92,483円(R5実績)）

【外来】

- ・1日平均患者数は384.1人/日（計画比 ▲5.9人/日）となり、計画を下回りました。
- ・外来診療単価は17,109円（計画比 +459円）となり、計画を上回りました。

【その他】

- ・救急搬送要請件数は2,569件で、前年度に比べて122件減少したものの、コロナ禍前に比べると1,103件増加しました。
- ・救急搬送受入件数は1,495件（計画比 ▲5件）となり、計画を下回りました。
- ・救急搬送応需率は58.2%となり、診療中などの理由でやむを得ずお断りした事例を要請件数から差し引いて算出した補正後の応需率は99.0%（計画比 ▲1.0%）でした。
- ・紹介件数は10,531件（計画比 ▲869件）、逆紹介件数は9,969件（計画比 ▲431件）となり、ともに計画を下回りましたが、前年度に比べると増加しました。

●病院全体の状況

項目	単位	R5年度			前年度実績 (R4年度)	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度比 (R5-R4)	コロナ禍前比 (R5-R1)	
		[実績]	[計画]	計画比					
入院	1日平均患者数		108.5	121.0	▲12.5	107.5	125.9	+1.0	▲17.4
	一般患者	人/日	105.0	-	-	100.4	125.9	+4.6	▲20.9
	新型コロナ患者		3.5	-	-	7.1	-	▲3.6	-
	病床稼働率(151床)	%	71.9	80.0	▲8.1	-	-	-	-
	新入院患者数		3,705	4,000	▲295	3,731	3,961	▲26	▲256
	一般患者	人	3,581	-	-	3,514	3,961	+67	▲380
	新型コロナ患者		124	-	-	217	-	▲93	-
平均在院日数	日	10.7	11.0	▲0.3	10.5	11.6	+0.2	▲0.9	
入院診療単価	円	62,479	59,500	+2,979	63,656	52,966	▲1,177	+9,513	
外来	1日平均患者数	人/日	384.1	390.0	▲5.9	390.4	406.4	▲6.3	▲22.3
	初診患者数	人/日	42.9	-	-	46.9	48.3	▲4.0	▲5.4
	外来診療単価	円	17,109	16,650	+459	16,518	15,655	+591	+1,454
その他	救急搬送要請件数	件	2,569	-	-	2,691	1,466	▲122	+1,103
	救急搬送受入件数	件	1,495	1,500	▲5	1,445	1,176	+50	+319
	救急搬送応需率	%	58.2	-	-	53.7	80.2	+4.5	▲22.0
	救急搬送応需率(補正後)*	%	99.0	100.0	▲1.0	97.8	87.8	+1.2	+11.2
	紹介率	%	84.0	79.0	+5.0	78.1	72.5	+5.9	+11.5
	紹介件数	件	10,531	11,400	▲869	10,345	10,182	+186	+349
	逆紹介率	%	100.3	89.0	+11.3	88.1	84.6	+12.2	+15.7
	逆紹介件数	件	9,969	10,400	▲431	9,414	9,484	+555	+485

※「救急搬送応需率(補正後)」は、診療中などの理由でやむを得ずお断りした事例を要請件数から差し引いて算出した応需率です。

●診療科別の入院関連実績

診療科	項目	単位	R5年度 [実績]	R4年度 [実績]	前々前実績 (R1年度)	前年度比(R5-R4)		前々前比(R5-R1)	
						増減	増減率	増減	増減率
内科	入院収益	千円	1,242,299	1,341,824	1,303,511	▲99,525	▲7.4%	▲61,212	▲4.7%
	入院患者数	人	22,851	23,535	27,267	▲684	▲2.9%	▲4,416	▲16.2%
	新入院患者数	人	1,863	1,921	2,043	▲58	▲3.0%	▲180	▲8.8%
	入院手術件数	件	370	501	472	▲131	▲26.1%	▲102	▲21.6%
外科	入院収益	千円	486,921	450,956	449,341	+35,965	+8.0%	+37,580	+8.4%
	入院患者数	人	5,240	5,043	6,112	+197	+3.9%	▲872	▲14.3%
	新入院患者数	人	466	446	422	+20	+4.5%	+44	+10.4%
	入院手術件数	件	415	414	385	+1	+0.2%	+30	+7.8%
整形外科	入院収益	千円	125,901	124,458	188,599	+1,443	+1.2%	▲62,698	▲33.2%
	入院患者数	人	2,344	2,336	4,327	+8	+0.3%	▲1,983	▲45.8%
	新入院患者数	人	147	151	169	▲4	▲2.6%	▲22	▲13.0%
	入院手術件数	件	109	122	147	▲13	▲10.7%	▲38	▲25.9%
小児科	入院収益	千円	122,106	98,681	142,199	+23,425	+23.7%	▲20,093	▲14.1%
	入院患者数	人	1,219	880	1,756	+339	+38.5%	▲537	▲30.6%
	新入院患者数	人	298	232	503	+66	+28.4%	▲205	▲40.8%
	入院手術件数	件	1	0	3	+1	皆増	▲2	▲66.7%
皮膚科	入院収益	千円	68,278	65,101	75,520	+3,177	+4.9%	▲7,242	▲9.6%
	入院患者数	人	1,574	1,460	1,964	+114	+7.8%	▲390	▲19.9%
	新入院患者数	人	110	125	152	▲15	▲12.0%	▲42	▲27.6%
	入院手術件数	件	50	60	75	▲10	▲16.7%	▲25	▲33.3%
泌尿器科	入院収益	千円	353,784	314,028	225,827	+39,756	+12.7%	+127,957	+56.7%
	入院患者数	人	4,842	4,436	3,651	+406	+9.2%	+1,191	+32.6%
	新入院患者数	人	526	463	399	+63	+13.6%	+127	+31.8%
	入院手術件数	件	348	310	223	+38	+12.3%	+125	+56.1%
眼科	入院収益	千円	30,162	55,636	51,765	▲25,474	▲45.8%	▲21,603	▲41.7%
	入院患者数	人	308	524	541	▲216	▲41.2%	▲233	▲43.1%
	新入院患者数	人	139	257	216	▲118	▲45.9%	▲77	▲35.6%
	入院手術件数	件	144	266	228	▲122	▲45.9%	▲84	▲36.8%
歯科口腔外科	入院収益	千円	59,134	42,511	14,303	+16,623	+39.1%	+44,830	+313.4%
	入院患者数	人	954	759	301	+195	+25.7%	+653	+216.9%
	新入院患者数	人	128	112	38	+16	+14.3%	+90	+236.8%
	入院手術件数	件	284	240	55	+44	+18.3%	+229	+416.4%
麻酔科	入院収益	千円	19,427	23,809	8,669	▲4,382	▲18.4%	+10,758	+124.1%
	入院患者数	人	391	251	155	+140	+55.8%	+236	+152.3%
	新入院患者数	人	28	24	19	+4	+16.7%	+9	+47.4%
	入院手術件数	件	18	18	11	±0	±0%	+7	+63.6%

●診療科別の外来関連実績

診療科	項目	単位	R5年度 [実績]	R4年度 [実績]	前々前実績 (R1年度)	前年度比(R5-R4)		前々前比(R5-R1)	
						増減	増減率	増減	増減率
内科	外来収益	千円	697,823	681,482	612,541	+16,341	+2.4%	+85,282	+13.9%
	外来患者数	人	27,413	27,698	27,508	▲285	▲1.0%	▲95	▲0.3%
	紹介件数	件	2,969	2,978	2,626	▲9	▲0.3%	+343	+13.1%
	逆紹介件数	件	2,858	2,700	3,108	+158	+5.9%	▲250	▲8.0%
外科	外来収益	千円	228,826	238,009	291,241	▲9,183	▲3.9%	▲62,415	▲21.4%
	外来患者数	人	9,102	9,550	10,736	▲448	▲4.7%	▲1,634	▲15.2%
	紹介件数	件	372	397	724	▲25	▲6.3%	▲352	▲48.6%
	逆紹介件数	件	575	528	655	+47	+8.9%	▲80	▲12.2%
整形外科	外来収益	千円	56,339	57,622	58,271	▲1,283	▲2.2%	▲1,933	▲3.3%
	外来患者数	人	5,773	6,031	6,295	▲258	▲4.3%	▲522	▲8.3%
	紹介件数	件	627	651	771	▲24	▲3.7%	▲144	▲18.7%
	逆紹介件数	件	652	610	786	+42	+6.9%	▲134	▲17.0%
小児科	外来収益	千円	45,164	47,907	50,901	▲2,743	▲5.7%	▲5,738	▲11.3%
	外来患者数	人	4,847	4,945	5,907	▲98	▲2.0%	▲1,060	▲17.9%
	紹介件数	件	661	538	1,073	+123	+22.9%	▲412	▲38.4%
	逆紹介件数	件	190	155	544	+35	+22.6%	▲354	▲65.1%
皮膚科	外来収益	千円	83,883	87,998	92,817	▲4,115	▲4.7%	▲8,935	▲9.6%
	外来患者数	人	9,245	8,626	10,261	+619	+7.2%	▲1,016	▲9.9%
	紹介件数	件	976	904	855	+72	+8.0%	+121	+14.2%
	逆紹介件数	件	762	572	641	+190	+33.2%	+121	+18.9%
泌尿器科	外来収益	千円	196,036	171,510	157,523	+24,526	+14.3%	+38,513	+24.4%
	外来患者数	人	11,397	11,197	10,442	+200	+1.8%	+955	+9.1%
	紹介件数	件	623	605	496	+18	+3.0%	+127	+25.6%
	逆紹介件数	件	919	799	422	+120	+15.0%	+497	+117.8%
眼科	外来収益	千円	33,011	40,885	64,444	▲7,874	▲19.3%	▲31,433	▲48.8%
	外来患者数	人	3,956	4,549	7,450	▲593	▲13.0%	▲3,494	▲46.9%
	紹介件数	人	138	195	182	▲57	▲29.2%	▲44	▲24.2%
	逆紹介件数	人	143	227	213	▲84	▲37.0%	▲70	▲32.9%
歯科口腔外科	外来収益	千円	63,165	61,058	31,797	+2,108	+3.5%	+31,368	+98.6%
	外来患者数	人	5,831	5,977	3,372	▲146	▲2.4%	+2,459	+72.9%
	紹介件数	件	1,036	960	633	+76	+7.9%	+403	+63.7%
	逆紹介件数	件	861	885	413	▲24	▲2.7%	+448	+108.5%
麻酔科	外来収益	千円	67,049	69,463	50,762	▲2,414	▲3.5%	+16,287	+32.1%
	外来患者数	人	8,461	8,708	7,988	▲247	▲2.8%	+473	+5.9%
	紹介件数	件	182	214	171	▲32	▲15.0%	+11	+6.4%
	逆紹介件数	件	100	88	99	+12	+13.6%	+1	+1.0%

5. 経営改革プランの取組の実施状況

●評価基準

< 中央病院の自己評価 >

評価	内 容
5	計画を大幅に上回っている
4	計画を上回っている
3	概ね計画どおりである
2	計画を下回っている
1	計画を大幅に下回っている

< 審議会の評価 >

評価	内 容
A	計画に対して具体的に取組んでおり、顕著な成果が認められる
B	計画に対して具体的に取組んでおり、成果が認められる
C	計画に対する取組はあるものの、十分な成果が現れていない
D	計画に対する取組が不十分である

●医療サービスの向上に向けた取組

(1) 急性期病院としての機能充実

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	2021 前年度実績 (R1年度)	2022 前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価					
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度				
①がん医療の充実						3	3	C					
<ul style="list-style-type: none"> 集学的治療の充実 がん相談支援体制の充実 がん連携パスの利用推進 	<ul style="list-style-type: none"> がん手術件数 放射線治療実施件数 化学療法実施件数 がん登録者数 がん支援相談受付件数 患者の会開催状況 がん連携パス使用件数 	250件	296件	316件	320件	<自己評価の理由、分析など> 集学的治療における診療実績は、計画を下回りましたが、 全体的に前年度と同水準の実績を確保できました。 特に、 がん手術件数については、泌尿器系（膀胱、前立腺、腎臓）の件数増加（前年比＋30件）などにより、前年度の実績を大きく上回りました。							
2,285件	1,948件	1,776件	2,220件										
1,280件	1,160件	1,189件	1,300件										
589件	651件	613件	－										
1,054件	939件	916件	－										
3回(58人)	0回(0人)	3回(48人)	－										
5件	0件	3件	10件										
②救急医療の充実						3	3	A					
<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送要請件数の増加への対応 救急患者受入基準の遵守 	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送要請件数 救急搬送受入件数 救急搬送応需率 救急搬送応需率(補正後) 	1,466件	2,691件	2,569件	－	<自己評価の理由、分析など> 救急搬送受入件数は前年度の実績を上回ったものの、計画を下回りました。 救急搬送応需率は50%台と依然低いものの、 補正後の応需率は100%に近づきつつあり、当院で受け入れることができたと思われ症例については、ほぼ全例受け入れることができています。							
1,176件	1,445件	1,495件	1,500件										
80.2%	53.7%	58.2%	－										
87.8%	97.8%	99.0%	100.0%										
※「救急搬送応需率(補正後)」は、診療中などの理由でやむを得ずお断りした事例を要請件数から差し引いて算出した応需率です。													
③質の高い医療を提供するための体制・設備の整備						3	3	B					
<ul style="list-style-type: none"> 低侵襲治療の推進 チーム医療の推進 クリニカルパスの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 内視鏡手術件数 腹腔鏡手術件数 胸腔鏡手術件数 循環器系手術件数 ダヴィンチ手術件数 リハビリの実施件数 クリニカルパス適用率 	558件	641件	563件	－	<自己評価の理由、分析など> 全体的に前年度と同水準の実績を確保できました。 特に、 ダヴィンチ手術については、泌尿器科に加えて、消化器外科（結腸）での使用を開始し件数が増加しました。 R6年1月には「ロボット手術センター」を開設し、横断的にロボット手術の課題や技術、国内外の有用な知見を共有し、緊密な連携を図ることによって、患者により安全で質の高い手術の提供を目指しています。							
235件	280件	288件	－										
42件	42件	37件	－										
106件	74件	55件	－										
33件	62件	86件	－										
36,581単位	33,556単位	35,815単位	－										
36.3%	46.4%	43.2%	－										

(2) 地域医療への貢献

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	前々年度実績 (R1年度)	前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価	
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
①地域の医療機関などとの役割分担・連携強化						3	4	B	
<ul style="list-style-type: none"> 地域の医療機関などとの役割分担・連携強化 診療所訪問の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介件数 逆紹介件数 診療所訪問件数 	10,182 件	10,345 件	10,531 件	11,400 件	<自己評価の理由、分析など> 紹介及び逆紹介件数は、前年度実績を上回りましたが、計画を下回りました。診療所訪問については、多くの医師の協力を得ながら、病院統合や各科のPRなどの情報を積極的に発信する機会として病院を挙げて取り組んだ結果、計画以上の件数を達成できました。			
②地域包括ケアシステムの構築を念頭に置いた取組						3	3	B	
<ul style="list-style-type: none"> 医療と介護の連携推進 	<ul style="list-style-type: none"> 入退院支援加算 介護支援等連携指導料 退院時共同指導料 	420 件	507 件	676 件	-	<自己評価の理由、分析など> 各種指標は概ね前年度実績を上回りました。特に、入退院支援加算については、患者総合支援センターの部門目標として掲げ、重点的に取組を行ったことにより、前年度に比べて大幅に増加しました。			
③地域の中核病院としての貢献						4	4	A	
<ul style="list-style-type: none"> 地域医療の中核を担う体制の維持・向上 画像診断のさらなる要請への対応 地域の医療従事者も参加可能な院内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介率 逆紹介率 MRI撮影件数 <ul style="list-style-type: none"> - 紹介件数 CT撮影件数 <ul style="list-style-type: none"> - 紹介件数 地域の医療従事者の研修等の参加人数 	72.5%	78.1%	84.0%	79%	<自己評価の理由、分析など> 紹介率及び逆紹介率は、計画及び前年度実績を上回りました。MRI及びCTの撮影件数のうち、紹介件数は概ね前年度と同水準の実績を確保できました。			
④地域に不足する医療機能への対応						3	3	B	
<ul style="list-style-type: none"> 小児2次救急輪番体制の維持・強化 皮膚科、眼科、歯科口腔外科を有する病院として地域医療への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 救急搬送受入件数(再掲) <ul style="list-style-type: none"> - 小児科 皮膚科の診療実績 <ul style="list-style-type: none"> - 新入院患者数 - 入院手術件数 眼科の診療実績 <ul style="list-style-type: none"> - 新入院患者数 - 入院手術件数 歯科口腔外科の診療実績 <ul style="list-style-type: none"> - 新入院患者数 - 入院手術件数 	1,176 件	1,445 件	1,495 件	1,500 件	<自己評価の理由、分析など> 全体的には前年度と同水準の実績を確保できました。眼科については、医師の体制変更（R4年度途中で常勤医師が退職。R5年度は常勤医師不在）が影響しています。			
⑤生涯教育の充実						2	3	C	
<ul style="list-style-type: none"> 市民の生涯教育の充実 職員による各種学会への参加や発表、論文の執筆などの支援 	<ul style="list-style-type: none"> 市民健康講座 (Web配信のみ含む) 学会発表 (研究会発表含む) 論文発表 	年 5 回	年 0 回	年 3 回	-	<自己評価の理由、分析など> 市民健康講座については、対面式での開催を自粛していましたが、令和6年1月に対面式での開催を再開しました。			

(3) 患者サービスの向上

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価	
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
①職員への意識啓発						3	3	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇への意識の向上 ・ 医療安全に関する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇研修 ・ 患者アンケートの実施 ・ インシデント発生状況 <ul style="list-style-type: none"> - 報告件数 - 報告率 (報告数/入院患者延べ数) 	1回 2回 1,040件 2.3%	1回 2回 1,197件 3.1%	1回 2回 1,391件 3.5%	1回以上 3回以上 -	<自己評価の理由、分析など> 医療安全に関する意識の醸成に取組み、インシデント報告率は前年度実績を上回りました。			
②情報発信の強化						3	3	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ等を活用した積極的な情報発信 ・ 地域の医療機関への情報発信の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「中央病院だより」の発行※ ・ メーリングリストでの情報発信回数 <p>※「中央病院だより」は、R4年度まで毎月発行していましたが、作成にかかる事務負担の軽減や経費削減の観点から、R5年度から隔月発行としました。</p>	12回 -	12回 11回	6回 11回	隔月発行 -	<自己評価の理由、分析など> <u>クリニック向けのPR</u> については、中央病院だよりやメーリングリストの活用を継続するとともに、 <u>診療所訪問(207件/年)を通じた広報を展開しました。市民向けのPR</u> については、 <u>ホームページで決算状況や市からの繰入金の情報</u> を新たに公開するなどしました。			

(4) 危機管理体制の充実

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価	
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
①災害時医療への対応						3	3	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害発生時の患者受入訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練の実施回数 	1回	1回	1回	1回以上	<自己評価の理由、分析など> 災害発生を想定した訓練を毎年度実施しています。			
②新興感染症の感染拡大時に備えた対応【R5年度から新たに追加】						-	3	-	
<ul style="list-style-type: none"> ・ BCPに基づく対応 ・ 専門人材の育成、確保 ・ 感染防護具の備蓄 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内研修実施回数 ・ 感染対策向上加算1※の算定維持 <p>※「感染対策向上加算」は、組織的な感染防止対策に関する施設基準（院内に感染制御チームを設置、新興感染症の発生時等に都道府県等の要請を受けて感染症患者を受け入れる体制等の確保など）に適合しているものと認められる場合に算定可能。</p>	2回 算定	2回 算定	2回 算定	-	<自己評価の理由、分析など> <u>感染対策向上加算1の算定を維持</u> し、感染拡大時においても、一般診療への影響を最小限に抑え、継続的に医療を提供できる体制の維持に努めています。			

(5) 職員の意識改革と組織変革

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価	
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
①職員のアクティビティとモチベーションの向上						3	3	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 業績報告会、職員表彰制度の充実 ・ 「グッジョブ & サンクスカード」※の活用 ・ 働き方改革の推進 ・ 目標に対する到達度や業績内容が給与に反映される仕組みの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業績報告会の実施回数 ・ 職員表彰制度の実施回数 ・ 「グッジョブ & サンクスカード」投票数 <p>※「グッジョブ & サンクスカード」は、職員が相互に感謝の気持ちを伝え合うことで、職員個人のモチベーションアップを図る取組です。</p>	1回 1回 22件	1回 1回 198件	1回 1回 140件	1回以上 1回以上 1回以上	<自己評価の理由、分析など> 業績報告会等の取組を継続実施しています。また、 <u>市の目標管理制度に準じ、目標に対する到達度や業績内容が次年度の給与(賞与)に反映される仕組みを令和5年度から導入しました。</u>			

(5) 職員の意識改革と組織変革

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価	
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
②デジタル化への対応【R5年度から新たに追加】						-	3	-	
<ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化の推進 マイナンバーカードの健康保険証利用の促進 サイバーセキュリティ対策の強化・徹底 	<ul style="list-style-type: none"> コピー用紙購入量^{※1} マイナンバーカード利用率^{※2} 診療録管理体制加算1^{※3}の算定維持 <p>※1 購入量は、A4サイズに換算した場合の実績値です。</p> <p>※2 「利用率」は、利用者数/外来レセプト数により算出しています。</p> <p>※3 「診療録管理体制加算1」は、適切な診療記録の管理を行っている体制を評価するもので、非常時に備えた医療情報システムのバックアップ体制を確保すること等の施設基準に適合している場合に算定可能です。</p>	3,395千枚	3,153千枚	2,840千枚	-	<自己評価の理由、分析など>	<p>ペーパーレス化については、意識啓発に加えて、院内の各会議において紙資料を廃止し、タブレット端末やPC持ち込みで資料を閲覧する運用を継続しており、コピー用紙購入量は減少しています。</p> <p>マイナンバーカードの健康保険証利用の促進については、利用率自体は低いものの、利用者数は県内の自治体立病院26のうち8番目となっています（令和5年10月実績）。</p> <p>サイバーセキュリティ対策については、有事に備えたバックアップ体制の確保を継続しています。</p>		
③組織の活性化						3	3	A	
<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が病院全体の目標を共有する仕組みの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 部門別ヒアリング実施回数 事業管理者メッセージ 	2回	2回	2回	-	<自己評価の理由、分析など>	<p>部門別ヒアリングを通じて、病院全体の目標や、病院全体の目標に関連した各部門の目標を共有しています。また、事業管理者からの全職員へのメッセージ配信を継続実施しています。</p>		

●経営の健全化に向けた取組

(1) 病床稼働率の向上

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価	
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
①地域の医療機関等との連携強化による医療機能の利用促進						2	2	C	
・診療所訪問などを通じた診療所との連携強化	・新入院患者数 - 一般患者 - 新型コロナ患者 <経路別> - 紹介から - 救急から - 上記以外	3,961人 3,961人 - 1,923人 474人 1,564人	3,731人 3,514人 217人 1,803人 501人 1,427人	3,705人 3,581人 124人 1,911人 643人 1,151人	4,000人 - - - - -	<自己評価の理由、分析など> 病院を挙げて診療所訪問を実施（207件/年）しましたが、 結果的に、新入院患者数は計画及び前年度実績を下回りました。 一般患者は増加（前年比+67人）しましたが、新型コロナ患者の減少（前年比▲93人）や、常勤医が不在となった眼科の減少（前年比▲118人）などが要因として挙げられます。			
②救急医療の充実（再掲）						-	-	-	
③病床稼働率確保に向けた意識の醸成【R5年度から新たに追加】						-	2	-	
・各診療科のリーダー、ベッドコントロールを担う看護部への意識啓発	・病床稼働率（151床） ・1日平均入院患者数（人/日） <稼働病床数について> 令和5年度より、稼働病床数は151床（3病棟体制）で運用しています。病院全体の目標は稼働率80%（121人/日）です。	- 125.9	- 107.5	71.9% 108.5	80% 121.0	<自己評価の理由、分析など> 経営会議（毎週開催）で診療科別の病床稼働率の推移を確認しています。稼働率が伸び悩んでいる診療科については、必要に応じて、要因の分析及び課題の解決策を講じるよう指示しましたが、 結果的に、病床稼働率は計画を下回りました。			
④データ分析に基づく病院経営の実践【R5年度から新たに追加】						-	3	-	
・DPCデータの活用	・診療科等の求めに応じて対応した件数	45件	48件	53件	-	<自己評価の理由、分析など> DPCデータを活用し、診療科別の疾患別統計データを毎月作成、配信するとともに、診療科等の求めに応じて、各種資料作成や分析を行っています。さらに、令和5年度においては、 個別の疾患の在院日数に着目し、他病院とのベンチマーク比較を行い、日数の乖離の要因を分析し、経営的又は医療的な観点から、診療科への提案も行いました。			
⑤業務指標及び経営状況の情報共有の徹底【R5年度から新たに追加】						-	3	-	
・職員の経営参画意識の高揚	・事業管理者メッセージ（再掲） ・運営協議会*における各部門からの報告件数 ※「運営協議会」は、各部門の長が出席する会議で、毎月定例開催しています。会議では主に事務局から前月の業務指標及び経営状況やその他周知が必要な事項を報告しています。	- -	26回 -	23回 8回	- -	<自己評価の理由、分析など> 経営会議（毎週開催）及び運営協議会（毎月開催）において、業務指標及び経営状況の情報共有を行っています。令和5年度においては、 運営協議会で各部門からの報告の機会を設け、それぞれの部門から全体に共有すべき内容を報告しやすい仕組みを整備しました。			

(2) 診療単価の増加

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価	
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
①適切な診療報酬の確保						4	4	B	
・診療報酬加算の取得、 維持	・入院診療単価 - 一般患者 - 新型コロナ患者 ・外来診療単価	52,966 円 52,966 円 - 15,655 円	63,656 円 62,176 円 84,599 円 16,518 円	62,479 円 61,471 円 92,483 円 17,109 円	59,500 円 - - 16,650 円	<自己評価の理由、分析など> 診療単価は入院、外来ともに計画を上回りました。 前年度との比較では、入院診療単価は減少しましたが、新型コロナ患者数の減少が主要因として挙げられます。			

(3) 費用の適正化

経営改革プランの 主な取組方針	関連指標など	コロナ禍前実績 (R1年度)	前年度実績 (R4年度)	R5年度		病院の自己評価		審議会の評価	
				実績	計画	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
①診療材料費の適正化						3	3	B	
・安価な同種同効品への 切り替え促進	・診療材料費対修正医業収益比率 - 診療材料費 (百万円)	8.7% 372	8.8% 382	8.4% 362	9.0% 400	<自己評価の理由、分析など> 診療材料費対修正医業収益比率は、計画よりも抑制できました。 なお、診療材料については、現場に対して安価な同種同効品への切替の提案を継続的に行い、メーカー間の競争を促すことで単価の引下げを行うなどの取組みを実施しています。 令和5年度においては、約78万円の削減効果がありました。			
②後発医薬品の積極的な利用						4	4	A	
・後発医薬品の積極利用 ・バイオ後続品 [※] 使用促進	・後発医薬品の使用割合 ・バイオ後続品使用実績 - 購入額 (千円) - 採用品目数	83.7% 175千円 5品目	87.8% 7,983千円 9品目	90.2% 7,431千円 10品目	90% - -	<自己評価の理由、分析など> 薬剤部を中心に後発医薬品の積極的な利用に継続的に取り組んでおり、 使用割合は計画を上回りました。また、令和5年6月から後発医薬品使用体制加算2から同加算1(施設基準で同割合90%必要)に届出を変更しています。			
<small>※「バイオ後続品」とは、国内で既に新有効成分含有医薬品として承認されたバイオテクノロジー応用医薬品(先行バイオ医薬品)と同等・同質の品質、安全性、有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発される医薬品です。</small>									
③職員数の適正化等						2	2	C	
・診療機能の維持・向上 に必要な医療スタッフの 確保 ・適正な職員給与費の 維持・改善	・職員給与対経常収益比率 ・職員給与費 [※] (百万円)	68.0% 3,399	53.5% 3,266	64.5% 3,275	62.8% 3,266	<自己評価の理由、分析など> 職員給与対経常収益比率は計画を上回りました。 医業収益のさらなる向上に努めることで、比率の改善を図ります。 令和5年4月に内科の新専門医制度における基幹施設に認定され、専攻医を3名増員しました。 統合までの間も引き続き、診療機能の維持・向上のため、適正な医療スタッフの確保に努めます。 また、令和5年度には、他病院との比較を通じて、 外来における応援医師の体制を見直し、報償費の適正化に向けた取組を実施しました(令和6年4月から反映)。			
<small>※「職員給与費」は、決算統計に計上している職員給与費(非正規職員の人件費等を含む)に事務職給与負担金を加えて算出しています。</small>									